

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473601068	事業の開始年月日	平成17年11月1日
		指定年月日	平成17年11月1日
法人名	医療法人社団 永和会		
事業所名	グループホーム清風荘		
所在地	(245-0018) 横浜市泉区上飯田町262番地		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者・ご家族・職員の信頼関係を構築し、安心して快適な生活が送れるように配慮している。医療機関との連携を強化し十分な健康管理を行えるように努めている。また、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、予防策としての取り組みを重視し対応を継続している。
コロナ禍の中、引き続きサービスの質を落とさないようにも努めている。
他、コロナ禍であるが、徐々に地域との交流やふれあいを始め、8月より「おでかふえ販売」で、手作りのクッキーやパンを買い物する取り組みを行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月4日	評価機関 評価決定日	令和5年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄いずみ野線「いずみ中央」駅または「ゆめが丘」駅徒歩約10分、横浜市営地下鉄「下飯田」駅徒歩15分のところに所在し、建物は木造2階建てでゆったりとした敷地は建物の周りを回ることができ、利用者は外気浴を楽しむことができます。周囲には畑や果樹園があり緑地に恵まれた環境となっています。

<優れている点>

ホームは家庭の延長線であるという認識の下、運営法人の医療機関と医療面での連携を密に取りながら、利用者が安心してゆったり過ごせる環境づくりを通じ、利用者の立場に立った良質な介護サービスの提供に努めています。ホーム長以下ユニットリーダー、計画作成担当とのチームワークもよく働きやすい職場環境づくりに努めており、ベテラン職員の定着率も高く安定したホーム運営を実現しています。人との触れあいを大切に、地域と交流にも注力し「おでかふえ販売」を実施しています。利用者にとって良いと思うことはすぐに実践する風土があり、振り返りもしっかり行っているやさしさにあふれたホームとなっています。

<工夫点>

緊急避難時に誘導支援がしやすいように利用者歩行状況を3つに区分し、車いす（赤色）歩行介助（黄色）自立（青色）と区分ごとに色分けしています。区分表を玄関に掲示すると共に各居室の表札に色分けした台紙をつけています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム清風荘
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・心掛けを掲示及び各職員の名札裏にも表示して、常に意識して処遇に取り組むようにしている。適宜確認している。理念の見直しは、新年度始めの会議にて検討し、周知もしている。	理念・心掛けについて、新年度始めの全体会議等で確認し、利用者の立場に立ち、利用者に信頼され不安を与えない良質な介護の実践に取り組んでいます。また、事業所の目標として新型コロナウイルス感染症拡大・まん延防止の取り組み強化を掲げ実施しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。今年度もコロナ感染症拡大防止の為、イベント・ボラ活動も自粛しているが、中学生とのオンライン学習会など徐々に活動開始もあり。他、暑中見舞いや年賀状などで地域やボランティアの方々と関係は繋いでいる。環境美化ボラ（外）継続	地域の交流の場として福祉事業所の手作りクッキーやパンを販売する「おでかふえ販売」を毎月実施しています。コロナ禍の影響で夏まつりなどのイベントは自粛していますが、中学生とのオンライン学習会や環境美化ボランティア活動に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	系列クリニックや近隣施設・行政窓口・地域住民からの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会・民生委員・行政担当者・地域包括支援センター担当者と連絡・情報交換を行い、サービスの向上を図っているが、今年はコロナ感染状況を見ながら紙面開催と会場開催で実施している。感染予防策を講じている事は必須です。	感染症拡大防止の観点から運営推進会議は書面開催で実施してきましたが、2023年2月より外部施設を借りて構成委員が集まり会議を再開しています。会議ではホームの活動状況等を説明し出された意見・要望等についてホームの取り組みを伝えていきます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	所轄担当部署と必要に応じ連絡をとっている。市町村主催の連絡会には、出来る限り参加している。オンライン参加もしている。	泉区高齢福祉関係や地域包括支援センター等と連絡を取り合っています。横浜市泉区社会福祉協議会と連携して泉サポートプロジェクトが推進している「おでかふえ販売」事業に協力し、地域の交流の場を提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、身体拘束を行わないケアを実施している。	身体拘束等防止委員会はホーム長以下ユニットリーダー、計画作成担当者が参加し、身体拘束の基準に照らし合わせながら利用者のケアについて話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。委員会で話し合った内容や身体拘束廃止等に関する指針について全職員に会議等で周知徹底しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、虐待防止に努めている。内部研修会を開催している。次年度4月より、身体拘束と切り離し虐待防止委員会を設置予定です。	横浜市で毎年実施している高齢者の虐待に関するアンケートの分析結果について、虐待防止委員会でチェックしています。全職員に対して委員会での話し合った内容を周知すると共に虐待防止に関する内部研修を実施し虐待防止に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護外部研修参加は、オンライン式で研修参加している。後見人制度は実際に活用中でもあり、自己研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとり説明を行っている。不明な点等については、適宜対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	所轄行政等への意見・不満・苦情等の申し立てが出来るようにしている。重要事項説明書に、その旨を記載している。苦情等は真摯に受け止め対応するようにしている。	相談窓口等についてはホーム内に明示し重要事項説明書にも記載して家族等に周知しています。意見箱も設置しています。家族代表が運営推進会議に参加し直接意見を表せる場があります。家族からの要望で機能訓練の為にマッサージ師の派遣を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を行っている。職員の意見を聞き、必要な改善を行っている。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面回覧し、全体会議で検討している。	職員会議や個人面談等を通じて職員からの意見を聞いて必要な改善を実施しています。以前は職員会議は月2回実施していましたが、現在はコロナ禍の為、紙面回覧を併用して月1回開催に切り替えて業務実効性向上に繋げています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員処遇の向上を図るように努めている。職員の意見や職場環境などの整備に留意している。職員が向上心をもって勤務出来るように配慮をしている。	職員処遇面等での改善を図るよう努めています。職員の向上心を持つように役割分担（行事、防災、薬、居室等）を決めて取り組んでいます。年休取得についてはシフト体制を組む前に休みの希望を聞くよう配慮し、職員の働きやすい環境づくりに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修はコロナ禍であるが、感染予防策講じての参加はしている。内部研修会等でスキルアップを目指している。個人面談も実施している。	職員の育成は研修計画に沿って取り組んでいます。内部研修では防災や口腔ケアセミナーをオンライン形式で実施しスキルアップを目指しています。新入職員については仕事の振り返りの記録を義務づけ、面談を入職後3ヶ月間、きめ細かく実施し指導しています。	通常業務に加え感染症拡大防止への取り組みなどもあり定例の職員面談の時間の確保が難しくなっています。職員の入れ替わりもあり職員の人材育成・管理面から、先送りになっている職員の面談を定期的に実施することが望まれます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との連絡会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加出来ないが紙面やメール等で情報交換などしている。また、リモートでも連絡を取り合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を十分に聴き、不安な点などの理解を心掛け、要望を可能な限り理解し、信頼関係の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	適宜、家族へ連絡を行い、サービス利用の状況を報告している。その際、利用者・家族から意見・要望など確認しながら、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に本人及び家族の希望を聞き、2か月後に、再度、介護計画の見直しを行い、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活での自立支援を促し、家庭的な環境作りを行い、共同生活を営んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、生活状況の連絡を行い、サービス提供状況を伝えている。現在、コロナ禍であり、制限のある面会方法で対応しています。他、月1回の家族発送の際、1か月の医療・日常生活の様子等を送付している。また、行事等の写真も送付している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、緊急必要時のみ外出とし、自粛対応している。電話対応はしている。他、面会制限マニュアルに沿っても対応している。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、面会については面会制限マニュアルに沿って対応し、外出は緊急必要時のみと制限しています。家族の訪問は、マスク着用・検温・消毒等感染症対策を実施した上、居室で面会できるように対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が気軽に話し合えるような配慮はしている。共同作業や個々の交流が図れるようしている。ユニット間での交流は、コロナ感染状況を見ながら可能にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も継続的な関わりが必要なケースの場合は、状況把握に努め必要な情報提供や対応・支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話や意向を聴き、出来る限り実現するように努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握するため、担当制を導入しています。本人の話や意向を聴いたり、意思疎通が困難な場合は日常生活の様子や顔の表情等を注意深くモニタリングしています。本人がおだやかにホームで過ごせるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の暮らしを把握し、本人や家族から生活歴等の聞き取りを行っている。また、今迄の趣味等を生かせるようにケアプランにも取り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活スタイルを尊重し、心身の状態を日々、把握するように努めている。有している能力の維持を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を日々、モニタリングし、毎月のケース会議において、評価及び再考している。コロナ禍であるが、面会時やまた、電話で意見など聞き、現状に即したより良い介護計画を作成し、サービスの提供を行っている。	介護計画は、毎日行う「ケース記録・ADLチェック表」「ケース記録」の課題確認を基にニーズを把握しています。利用者・家族の要望や医療関係者の意見も反映して作成しています。概ね短期目標更新の6ヶ月ごとに見直し、状態に変化があれば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を作成し、継続的な対応・支援が出来るようにしている。ケース会議等に反映し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に対して必要な相談先を検討し、医療機関や連携施設・行政機関・地域との連携をとり、サービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の社会福祉協議会や自治会・民生委員などへの協力を依頼し、地域との連携を図っている。地域の一員としての存在を確立できるように努めている。「おでかふえ販売」を通じて地域交流の支援もしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診やクリニックとの連携を図り、本人・家族の希望に沿った適切な医療を受けられるように努めている。	利用者全員が協力医を月1回受診し、同一医療機関の看護師が週1回来訪しています。健康観察をし主治医との連携を密にしています。皮膚科と歯科（歯科衛生士伴う）は月1回、訪問マッサージ師が週3回来訪しています。眼科など専門医の通院は家族が同行しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な看護師訪問を行い、日常的な健康管理に努めている。適宜、受診や相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との定期的な連絡や本人の状況確認を行っている。連携をとり、記録もしている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限されているため、電話でのやりとりが中心である。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応は、入居時の契約時に、終末期（ターミナルケア）は行わない事を説明している。他、重度化に伴う延命処置確認書は整備し、確認はしています。 ターミナルケアマニュアルはあり。	契約時に事業所が看取りを行わないことを本人・家族等に説明し、「重度化に伴う延命確認書」で家族の意向を確認しています。共同生活が困難になったと判断した際は、家族等に意向を再確認して、特別養護老人ホームや療養型の病院などへスムーズに移れるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルの確認を備え、定期的に訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外部研修参加は自粛している為、内部研修会で実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年2回以上（夜間想定を含む）実施している。今年度は1回は消防立ち合いにて実施している。3月に2回目予定です。避難誘導者の区分けし、より明確化している。 災害対策備蓄品を整備中でもある。 *次年度内にBCP策定予定です。	所在地が洪水などの想定区域外であることを確認し、年2回夜間も想定した避難訓練を実施しています。防災備蓄リストで食料や備品を管理しています。居室の表札を利用者の脚力の状況により色分けし、避難時の誘導がしやすいよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱い規定に沿って、情報の管理を徹底している。常に理念に沿って、人格・人権の尊重をしている。プライバシーの確保にも努めている。スピーチロックに関する内部研修会を行っている。	医療機関との連携など「個人情報の利用目的に関する規定」を整え、個人情報を含む書類は事務室を施錠し管理しています。利用者を応対する際の声かけは小声で行い、訪問診療時の受診は居室で行うなど、プライバシーや誇りを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自らの意思表示が出来るような支援方法を行なうように努めている。必要に応じ、選択肢を用意するなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	習慣・生活スタイルや個々のペースを尊重し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の好みや希望にあった身だしなみやおしゃれが、出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れ、季節が感じられる食卓を演出している。準備・片付けなども可能な限り、利用者と一緒にしている。また、食事形態（刻み・ミキサー等）も考慮し、提供もしている。	専門業者から配送されるレシピ付きの食材を職員が調理し食事を提供しています。おせち、年越しそば等の季節行事も提供しています。月1回利用者の好みを聞き海鮮丼などの出前を取っています。利用者は食事の下ごしらえや食器拭きなどで参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者栄養士が立てた献立作成により、栄養バランスの管理を行っている。1日の水分摂取量を確認し、十分な水分確保を促している。身体状況に応じた食事形態も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。清潔保持に努めている。義歯の衛生管理も行っている。訪問歯科医師から口腔機能維持管理に関わる助言も受け、実施している。毎食前に口腔体操も実施している。口腔ケアセミナーをオンライン式で内部研修会とし開催する。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄誘導を行っている。排泄の失敗・失禁が軽減されるよう支援している。	排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援しています。おむつ使用は最終手段と捉え、入所時におむつ使用の人がリハビリパンツ使用に改善したり、パンツ使用の状態が維持できるよう定時誘導や利用者の仕草などに基つき随時誘導を適切に行い支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便・便秘状況を把握し、医師の指示や便通を促す飲食物の提供にも心掛けている。定期的な運動としてラジオ体操やリハビリ体操、嚥下体操、散歩を日常生活に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、午後から夕食前にかけて、ゆっくりと時間をかけています。また、季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯等も取り入れています。	1階にリフト浴があり利用者は週2回入浴しています。入浴を拒絶した時はゆっくり時間をかけて促し、入浴できるよう努めています。職員との会話を楽しみに入浴する人や、建物オーナーから自宅で取れた柚子をもらい香りを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を工夫し、夜間に十分な睡眠が取れるよう生活習慣に合わせた対応を行っている。午睡も取り入れてもいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員による服薬管理を実施し、誤薬防止にも努めている。また、薬に関する情報の共有を図り、取り扱いに十分に留意し支援している。適宜、看護師や医師へ本人の状態・疾病（症状）の報告をし、変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	可能な限り、自身で出来ることは自身で行うように支援している。生活歴や趣味・希望を取り入れ、張りのある生活が送られるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出の自粛は継続です。天気の良い日は、庭の散歩はしています。初詣には近くの神社へ行きました。	コロナの感染状況を見極めながら感染対応策をして車窓からの桜見物や、初詣に出かけています。外出を控えている人は庭の散歩やベランダで外気浴をします。外出を自粛している間は、廊下での歩行やリハビリ体操、SNSを活用した体操をして気分転換しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理能力を把握し、必要な管理・使用方法について検討し、実施している。管理や使用については、意思確認に留意している。月1回の「おでかふえ販売」時に金銭のやり取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、本人から希望があった際に電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。 暑中見舞いや年賀状作成をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃や衛生管理に努めている。 行事等の写真を掲載したり、季節ごとの演出をしている。 また、懐メロなどのDVDを流すなど居心地よく過ごす工夫もしています。 他、新型コロナウイルス感染症予防から加湿器、手指用アルコール噴霧器の設置、加湿用タオル・換気している。	カーテンで日差しを調節し、不快にならないようにしています。環境整備に努めワックスがけを業者に依頼し整えています。リビングに飾られた雛人形や廊下から望む富士山の雪景色、庭の畑やみかんの木などの植栽それぞれから季節が感じ取れ、心地良く過ごせる環境を工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを配置し、気の合う利用者同士が話せる環境を提供している。リビングから景色を眺めたり日当たりの良い場所では日光浴が行える共用空間となっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の趣味や趣向を活かし、なじみの生活用品を使用することで、生活しやすく安心出来る環境づくりとなっています。	居室はエアコン、ナースコール、換気扇、照明、カーテン、クローゼット、整理ダンス、介護ベッド、寝具等が備え付けられています。テレビ、日本人形、犬の置物、写真などが思い思いのものを持ち込んでいます。毎週リネン交換し、隅々まで掃除を行い清潔保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	周囲に手すりを配置し・必要な場所に名札や案内を付け、安全かつ自立した生活が出来るように配慮している。		

事業所名	グループホーム清風荘
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・心掛けを掲示及び各職員の名札裏にも表示して、常に意識して処遇に取り組むようにしている。適宜確認している。理念の見直しは、新年度始めの会議にて検討し、周知もしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。今年度もコロナ感染症拡大防止の為、イベント・ボラ活動も自粛しているが、中学生とのオンライン学習会など徐々に活動開始もあり。他、暑中見舞いや年賀状などで地域やボランティアの方々と関係は繋いでいる。環境美化ボラ（外）継続		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	系列クリニックや近隣施設・行政窓口・地域住民からの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会・民生委員・行政担当者・地域包括支援センター担当者と連絡・情報交換を行い、サービスの向上を図っているが、今年はコロナ感染状況を見ながら紙面開催と会場開催で実施している。感染予防策を講じている事は必須です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	所轄担当部署と必要に応じ連絡をとっている。市町村主催の連絡会には、出来る限り参加している。オンライン参加もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、身体拘束を行わないケアを実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の基準に沿って、また、身体拘束等防止委員会での話し合いからも全職員が周知・徹底化を図り、虐待防止に努めている。内部研修会を開催している。 次年度4月より、身体拘束と切り離し虐待防止委員会を設置予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護外部研修参加は、オンライン式で研修参加している。後見人制度は実際に活用中でもあり、自己研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとり説明を行っている。 不明な点等については、適宜対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	所轄行政等への意見・不満・苦情等の申し立てが出来るようにしている。 重要事項説明書に、その旨を記載している。苦情等は真摯に受け止め対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議を行っている。職員の意見を聞き、必要な改善を行っている。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、紙面回覧し、全体会議で検討している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員処遇の向上を図るように努めている。職員の意見や職場環境などの整備に留意している。職員が向上心をもって勤務出来るように配慮をしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修はコロナ禍であるが、感染予防策講じての参加はしている。内部研修会等でスキルアップを目指している。個人面談も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との連絡会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加出来ないが紙面やメール等で情報交換などしている。また、リモートでも連絡を取り合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を十分に聴き、不安な点などの理解を心掛け、要望を可能な限り理解し、信頼関係の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	適宜、家族へ連絡を行い、サービス利用の状況を報告している。その際、利用者・家族から意見・要望など確認しながら、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に本人及び家族の希望を聞き、2か月後に、再度、介護計画の見直しを行い、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活での自立支援を促し、家庭的な環境作りを行い、共同生活を営んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、生活状況の連絡を行い、サービス提供状況を伝えている。現在、コロナ禍であり、制限のある面会方法で対応しています。他、月1回の家族発送の際、1か月の医療・日常生活の様子等を送付している。また、行事等の写真も送付している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急必要時のみ外出とし、自粛対応している。電話対応はしている。他、面会制限マニュアルに沿って対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が気軽に話し合えるような配慮はしている。共同作業や個々の交流が図れるようしている。ユニット間での交流は、コロナ感染状況を見ながら可能にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も継続的な関わりが必要なケースの場合は、状況把握に努め必要な情報提供や対応・支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話や意向を聴き、出来る限り実現するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の暮らしを把握し、本人や家族から生活歴等の聞き取りを行っている。また、今迄の趣味等を生かせるようにケアプランにも取り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活スタイルを尊重し、心身の状態を日々、把握するように努めている。有している能力の維持を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を日々、モニタリングし、毎月のケース会議において、評価及び再考している。コロナ禍であるが、面会時やまた、電話で意見など聞き、現状に即したより良い介護計画を作成し、サービスの提供を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を作成し、継続的な対応・支援が出来るようにしている。ケース会議等に反映し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に対して必要な相談先を検討し、医療機関や連携施設・行政機関・地域との連携をとり、サービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の社会福祉協議会や自治会・民生委員などへの協力を依頼し、地域との連携を図っている。地域の一員としての存在を確立できるように努めている。「おでかふえ販売」を通じて地域交流の支援もしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診やクリニックとの連携を図り、本人・家族の希望に沿った適切な医療を受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な看護師訪問を行い、日常的な健康管理に努めている。適宜、受診や相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との定期的な連絡や本人の状況確認を行っている。連携をとり、記録もしている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限されているため、電話でのやりとりが中心である。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応は、入居時の契約時に、終末期（ターミナルケア）は行わない事を説明している。他、重度化に伴う延命処置確認書は整備し、確認はしています。ターミナルケアマニュアルはあり。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルの確認を備え、定期的に訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外部研修参加は自粛している為、内部研修会で実施してる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年2回以上（夜間想定を含む）実施してる。今年度は1回は消防立ち合いにて実施している。3月に2回目予定です。避難誘導者の区分けし、より明確化している。災害対策備蓄品を整備中でもある。 *次年度内にBCP策定予定です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱い規定に沿って、情報の管理を徹底している。常に理念に沿って、人格・人権の尊重をしている。プライバシーの確保にも努めている。スピーチロックに関する内部研修会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自らの意思表示が出来るような支援方法を行なうように努めている。必要に応じ、選択肢を用意するなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	習慣・生活スタイルや個々のペースを尊重し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の好みや希望にあった身だしなみやおしゃれが、出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れ、季節が感じられる食卓を演出している。準備・片付けなども可能な限り、利用者と一緒に行うようにしている。また、食事形態（刻み・ミキサー等）も考慮し、提供もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者栄養士が立てた献立作成により、栄養バランスの管理を行っている。1日の水分摂取量を確認し、十分な水分確保を促している。身体状況に応じた食事形態も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。清潔保持に努めている。義歯の衛生管理も行っている。訪問歯科医師から口腔機能維持管理に関わる助言も受け、実施している。毎食前に口腔体操も実施している。口腔ケアセミナーをオンライン式で内部研修会とし開催する。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄誘導を行っている。排泄の失敗・失禁が軽減されるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便・便秘状況を把握し、医師の指示や便通を促す飲食物の提供にも心掛けている。定期的な運動としてラジオ体操やリハビリ体操、嚥下体操、散策を日常生活に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、午後から夕食前にかけて、ゆっくりと時間をかけています。また、季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯等も取り入れています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を工夫し、夜間に十分な睡眠が取れるよう生活習慣に合わせた対応を行っている。午睡も取り入れてもいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員による服薬管理を実施し、誤薬防止にも努めている。また、薬に関する情報の共有を図り、取り扱いに十分に留意し支援している。適宜、看護師や医師へ本人の状態・疾病（症状）の報告をし、変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	可能な限り、自身で出来ることは自身で行うように支援している。生活歴や趣味・希望を取り入れ、張りのある生活が送られるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出の自粛は継続です。天気の良い日は、庭の散歩はしています。初詣には近くの神社へ行きました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理能力を把握し、必要な管理・使用方法について検討し、実施している。管理や使用については、意思確認に留意している。月1回の「おでかふえ販売」時に金銭のやり取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、本人から希望があった際に電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。 暑中見舞いや年賀状作成をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃や衛生管理に努めている。 行事等の写真を掲載したり、季節ごとの演出をしている。 また、懐メロなどのDVDを流すなど居心地よく過ごす工夫もしています。 他、新型コロナウイルス感染症予防から加湿器、手指用アルコール噴霧器の設置、加湿用タオル・換気している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを配置し、気の合う利用者同士が話せる環境を提供している。リビングから景色を眺めたり日当たりの良い場所では日光浴が行える共用空間となっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の趣味や趣向を活かし、なじみの生活用品を使用することで、生活しやすく安心出来る環境づくりとなっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	周囲に手すりを配置し・必要な場所に名札や案内を付け、安全かつ自立した生活が出来るように配慮している。		

2022年度

事業所名：グループホーム清風荘

作成日：令和5年 4月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組みで職員面談の時期が遅れている	年度内に職員面談を実施していく	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策体制も落ち着き、今年度の8～9月に面談実施していく ・予定表を組み、職員に周知していく 	4ヶ月
2	5.6	身体拘束・虐待防止から同一の委員会活動内容で実施していた	今年度4月より、身体拘束と虐待防止を分けし、活動実施していく	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会開催や活動も別個として営む ・シフト表に各委員会活動日を記載する ・指針も別個で作成する ・職員会議内で別個の指針の読み合わせを行い職員に周知していく（5.6月） 	2ヶ月
3	35	災害対策についてBCP策定が未完成である	今年度内に、BCPを策定していく	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP策定に関する研修参加済みなので策定委員会を立ち上げ、先ずはたたき台を作成する ・防災担当者（防火管理者）と感染症対策委員会の協力体制は必須 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月